



男女がともに活躍できる社会へ

内閣府
男女共同
参画局



男性も女性もすべての人が、性別にかかわらず個人として尊重され責任を分かち合い、その個性と能力を十分に発揮することができる社会が「男女共同参画社会」です。

平成11年に施行された男女共同参画基本法では、男女共同参画社会の実現を21世紀の日本社会を決定する最重要課題として位置付けています。

男女共同参画社会の実現には、「男だからこうあるべき」、「女はこうすべき」という性別による固定的な役割分担意識や慣行にとらわれることなく、自分の意思で、家庭、地域、職場、学校などの活動やその意思決定に参加することが必要不可欠です。

毎年、6月23日～29日は「男女共同参画週間」です。今回の特集では、男女共同参画をめぐる社会の状況や本市の取り組みについて紹介します。

男女共同参画社会を実現するには、国や県、市はもちろん、市民の皆さんや事業者の方々などがそれぞれの立場で課題に気づき、共に取り組んでいくことが必要です。この機会に「男女共同参画社会」について皆さんも考えてみませんか。

男女共同参画をめぐる社会の状況

社会経済情勢等の変化

少子高齢化が進み、人口減少社会に突入した現代において、社会経済や地域づくり、育児や介護などの家庭生活を支えていくためには、幅広く多様な人々が活躍する男女共同参画社会の実現が必要不可欠です。

国の第5次男女共同参画基本計画によると、近年、若い女性の大都市圏への転入超過が増大しており、地方でも周辺地域から都市部への人口流入の状況がみられています。地方出身の若い女性が大都市圏や都市部で暮らし始めた理由として、進学や就職だけではなく「地元を離れたかったから」といったことが挙げられています。その背景には、地域に根差す固定的な性別役割分担意識が女性の居場所や出番を奪っている状況や、地方の企業経営者などの理解不足により女性が働くことによりがいを感ぜられない状況などがあることが考えられます。

南九州市でも人口減少は続く見込まれており、男女共同参画・女性活躍の推進は、優秀な人材の確保・定着につながり、地域経済の持続的な発展にとっても不可欠です。

また、地域づくりについては、担い手の確保や高齢化が課題となり、地域の抱える課題も多様化しています。さ

さまざまな視点から課題解決ができる多様な人材の確保が必要で、地域づくりの担い手が、性別や年齢などで多様であることはもちろん、性別や年齢などにより役割が固定化されないことが大切です。

SDGsとジェンダー平等

今やすっかりおなじみの言葉となったSDGs、持続可能な開発目標の5番目の目標として「ジェンダー平等を実現しよう」が掲げられています。

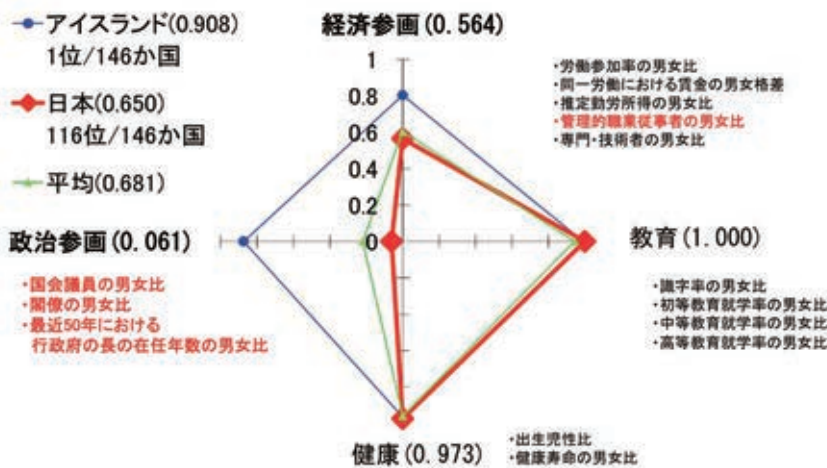
世界的な潮流として、すべての人々の人権を尊重し、ジェンダー平等とすべての女性のエンパワーメント(主体的に行動することによって状況を変える力をつけること)を達成することを目指した取り組みが各国で行われています。

「ジェンダー・ギャップ指数」では、日本の順位は調査対象146カ国中116位で、G7諸国の中では最下位となっており、日本の男女共同参画の推進状況は遅れたものとなっています。



ジェンダー・ギャップ指数(GGI) 2022年

- ・スイスの非営利財団「世界経済フォーラム」が公表。男性に対する女性の割合(女性の数値/男性の数値)を示しており、0が完全不平等、1が完全平等。
- ・日本は146か国中116位。「教育」と「健康」の値は世界トップクラスだが、「政治参画」と「経済参画」の値が低い。



順位	国名	値
1	アイスランド	0.908
2	フィンランド	0.860
3	ノルウェー	0.845
4	ニュージーランド	0.841
5	スウェーデン	0.822
10	ドイツ	0.801
12	フランス	0.791
22	英国	0.780
25	カナダ	0.772
27	アメリカ	0.769
63	イタリア	0.720
79	タイ	0.709
83	ベトナム	0.705
92	インドネシア	0.697
99	韓国	0.689
102	中国	0.682
115	ブルキナファソ	0.659
116	日本	0.650
117	モルディブ	0.648

(備考) 1. 世界経済フォーラム「グローバル・ジェンダー・ギャップ報告書(2022)」より作成
2. スコアが低い項目は赤字で記載
3. 分野別の順位: 経済参画(121位)、教育(1位)、健康(63位)、政治参画(139位)

ジェンダー・ギャップ指数ってなに?

スイスの非営利財団「世界経済フォーラム」が毎年発表している各国における男女間の格差を図る指数で、「経済参画」「教育」「健康」「政治参画」の4つの分野のデータをもとに算出されています。「1」が完全平等、「0」が不完全平等を示します。

日本の数値は、調査対象国の平均値 0.681 以下でした。日本は、分野別にみると教育(1.0)、健康(0.973)の分野では男女間の格差がほとんどありませんが、政治参画(0.061)と経済参画(0.564)の分野では、男女間の賃金格差や女性管理職、女性政治家の少ないことなどが要因となって、男女間の格差が大きく、世界的に遅れをとっています。

出典: The Global Gender Gap Report 2022

【用語解説】ジェンダーとは?

「社会的・文化的に形成された性別」のことです。生まれつきの生物学的な性別がある一方、社会通年や慣習の中で作り上げられた「男性像」「女性像」があり、このような男女の区別を「ジェンダー(gender)」といいます。「社会的・文化的に形成された性別」は、それ自体に良い、悪いの価値を含むものではなく、国際的にも使われています。

南九州市の取り組み

男女共同参画基本条例

南九州市では、平成19年12月に「南九州市男女共同参画推進条例」が制定されました。

市、住民、事業者の責務を明確にし、それぞれが家庭などで男女共同参画社会の実現に向けて取り組むべき努力目標などが定められています。

男女共同参画社会

家庭で

家族それぞれの個性を大切に、性別による固定的な役割分担を解消しましょう

地域で

地域のあらゆる活動に、みんなが平等に参画する機会を確保しましょう

職場で

男性も女性もみんなが仕事と家庭の両立ができる環境づくりに取り組みましょう

学校で

性別にかかわらず、一人一人の個性や能力を伸ばす教育に取り組みましょう

第2次南九州市男女共同参画

基本計画と年次評価

市の男女共同参画推進の基本計画である「第2次南九州市男女共同参画基本計画」は、令和2年度から令和11年度までの10年間の計画です。

計画の基本目標「一人ひとりの人権が尊重され、『多様な生き方が選択でき、個性や能力が発揮できる社会づくり』と『誰もが安心して暮らすことができる社会づくり』の実現に向け、本市では各課横断的に次の項目に重点的に取り組んでいます。

- ① 男女共同参画に関する意識啓発のための教育・学習の推進
- ② すべての人が能力を発揮できる働く環境の整備
- ③ 政策や方針決定の過程への男女共同参画の推進
- ④ 男女共同参画による地域コミュニティづくりの推進
- ⑤ 男女共同参画を阻害するあらゆる暴力の根絶
- ⑥ すべての人の生涯を通じた健康支援
- ⑦ すべての人が安心して暮らせる男女共同参画に視点を踏まえた環境の整備

また、毎年、外部委員からなる南九州市男女共同参画審議会に、基本計画に基づいた取り組みが実施できているか審議・評価していただき、評価結果

を今後の取り組みに活かしています。

昨年度も、家族経営協定や高齢者サロンの整備、ハラスメント対策など幅広い分野についてご意見をいただきました。市のホームページに評価結果とあわせて掲載してありますので、ぜひ市の取り組み状況についてご確認ください。

自分育ての出前講座

市民の皆さんに身近なテーマを通して「男女共同参画」を学んでいただく機会として、「自分育ての出前講座」を実施しています。

令和4年度は、11回の出前講座を実施し、子どもから大人まで多くの方に、男女共同参画についての学びを深めていただきました。

地域やグループ、学校に、ご希望のテーマに合わせた講師を無料で派遣します。テーマ選びが難しいという場合は、テーマ選びからお手伝いしますので、お気軽にご相談ください。

〈令和4年度の開催テーマ〉

LGBTQ基礎講座、ワーク・ライフ・バランス、子どもの人権、違いを認め合うワークショップなど

出前講座



申し込み



【問】

知まちづくり推進課
共生・協働推進係

性別に関わらず、どなたでも相談できます。(秘密は固く守られます。)

男女共同参画
電話相談

0993-83-2511 受付時間：平日9:00~17:00

「家庭のことで悩んでいる」、「DVのことで」、「人間関係がうまくいかない」、「子育てに疲れてしまった」、「ジェンダー、性別のことで悩んでいる」

匿名でのご相談もお受けします。まずはご相談ください。

〈参考資料〉

- ・第5次男女共同参画基本計画
- ・第4次鹿児島県男女共同参画基本計画



小学校での「違いを認め合うワークショップ」の様子